

月による掩蔽（えんぺい＝食）は、月が見かけ上背後にある恒星や惑星を隠す天文現象です。「月による恒星食」の場合も「月による惑星食」の場合も、「隠される天体」は、必ず月の左側（東側）から隠れ、右側（西側）に現れます。これは、恒星や惑星の日周運動（天球上の見かけの動き）よりも、月の日周運動のほうが、少し遅いからです。つまり食の時は、恒星や惑星が月の背後を「追い越していく」ことになります。

今回の「土星食」では、月がほぼ上弦（半月）でした。土星が月の背後に隠れる時は、半月の「影の側」だったので、観望も撮影も容易でした。しかし土星が月の背後から現れる時は、半月の明側だったので、観望も撮影も困難だと予想していました。数年前の「天王星食」の時も同じような状況で、天王星が出てくる時の撮影が非常に難しかったからです。

しかし、予想はずれました。天王星よりも土星のほうが数十倍明るいので、容易に観望も撮影もできました。写真は19:02に土星がまさに現れた一瞬です。残念ながら、土星の環を持った形状までは写っていませんでした。月の明るさに合わせたので、露出不足で土星の環までは写らなかったのです。しかし、友人がすばらしい写真を撮ってくれました。明日はそれを紹介します。

(2024年12月8日19:02／文京区小石川)

